ライフケアガーデン湘南

症　例　概　要　利用者氏名：80代　男性　介護度申請中

利用期間　：令和8年3月～現在に至る

経　　過　：奥さんと2人暮らし。デイサービスを利用されながら生活されていた。1年前くらいから食事管理が難しくなってきていた。自宅にて転倒され頚部カラー着用指示が入る。また、糖尿病の悪化によりR8年1月に入院。入院中に2度転倒された事により歩行困難・手指脱力が発生、非骨傷性脊髄損傷と診断。同年2月に転院。同年3月に退院の目処が立ち、当施設に入所となる。

内　　容

転倒による手の脱力と、上体を起こす際の血圧低下が原因で、入院中はベッド上生活を余儀なくされていた。入居当初はネックカラーを常時着用し、食事もベッド上での見守り介助であったが、好物以外にはほとんど手を付けず介助も嫌がられる状態であった。しかし、ご本人は「起きたい」という強い要望を持たれており、ご家族も「リハビリをさせてあげたい、点滴ではなく経口摂取で本人の好きな物を食べさせたい」と希望されていた。そこで、食事内容の向上と離床時間の増加を目標に掲げ、多職種連携によるアプローチを開始した。

看護は血圧変動に注意した体調管理と摂取状態の把握を行い、リハビリはベッドからの離床と車椅子上での座位保持状況の評価、および安全な移乗方法の提案を行った。介護はPTの評価を共有し、日々の離床時間を徐々に増やすよう意識して関わった。また、ケアマネはご家族とのコミュニケーションを図り、好物の持ち込みを依頼した。食事面では、当初手を付けなかったミキサー食やゼリーの代わりに、好物のフルーツやあんパンを提供。スタッフ付き添いのもと、ご自身でパンを口に運び「美味しい!」と笑顔を見せられるなど、摂取状況は良好となり増量へと繋がった。

離床支援では声掛けを徹底し、デイルームでテレビを観たり他の入居者と過ごしたりする時間を増やした。移乗に対しても協力的で、しっかりと両足に力を入れて立ち上がる姿が見られ、ご本人も「一人で寝てばかりじゃつまらないよね」とご満悦の様子であった。こうした取り組みの結果、食事内容はミキサー食から一口大へステップアップし、移乗は2人介助から後方軽介助へと向上した。入居後2ケ月で大幅にADLが向上している状況にご家族からも感謝の言葉をいただけた。

多職種が連携してご本人・ご家族の意向に寄り添い、ADLとQOLを同時にスピード感をもって向上することができた症例をキラキラ介護賞として推薦いたします。